

表10 更年期に感じた身体症状

	M.A.		
	日本 (n=748)	韓国 (n=204)	中国 (n=647)
1 のぼせ、ほてり、発汗	55.5	59.3	70.2
2 むくみ	13.2	19.1	26.0
3 冷え	23	11.3	14.1
4 めまい	25.7	30.4	48.7
5 動悸	25.8	48.5	49.6
6 耳鳴り	18.6	12.7	23.6
7 息切れ	13.2	26.5	8.8
8 肩こり	34.8	43.6	29.8
9 しびれ	17.1	19.6	17.3
10 皮膚のかゆみ	19.5	15.2	20.9
11 トイレが近くなった	17.2	22.5	17.0
12 尿もれ	13.6	7.8	10.0
13 月経の量が多くなった	21.9	6.9	27.7
14 月経期間の延長	17	7.4	30.9
15 腰痛	24.2	30.9	31.1
16 頭痛	24.2	25.5	28.6
17 腹痛	7.2	4.9	9.0
18 関節痛	16.4	31.4	27.4
19 便秘	12.7	17.2	16.7
20 円形脱毛症など	4.8	7.4	0.8
21 子宮筋腫関連の悩み増幅	11	7.8	5.7
22 性交痛	15.8	6.9	9.0
23 その他	7.9	2.5	1.4
24 性欲減退	22.5	25.0	35.1
25 何もなかった	5.5	2.9	0.9

表11 更年期に感じた精神症状

	M.A.		
	日本 (n=748)	韓国 (n=204)	中国 (N=647)
1 イライラ	37.8	14.2	65.1
2 うつ状態	21.7	32.4	34.0
3 不眠	20.9	17.6	38.3
4 眠りが浅い	29.2	21.1	30.4
5 無力感	21.6	27.5	33.7
6 不安感	24.2	36.8	23.5
7 対人関係が苦痛	14.8	5.9	9.0
8 自信喪失	16.8	9.3	7.6
9 その他	7.4	2.9	0.5
10 何もなかった	23.1	12.3	7.4

治療について

表12-1 治療のためにどこかを尋ねたか(%)

	医療機関	医療機関以外	電話相談など	どこへも行かなかった
日本(n=678)	38.8	2.8	0.1	57.2
韓国(n=193)	38.9	3.1	2.1	56.0
中国(n=599)	53.3	0.5	0.2	46.1

表12-2 かかった診療科(%)

	日本 (n=662)	韓国 (n=105)	中国 (n=319)
1 産婦人科	26.6	67.6	33.5
2 内科	21.3	13.3	31.2
3 皮膚科	2.9	1.0	4.8
4 心療内科	2.0	4.8	2.0
5 神経科	2.4	4.8	8.7
6 精神科	1.4	3.8	1.9
7 外科	9.2	3.8	6.6
8 その他	4.1	1.0	3.4

表12-3 どこへも行かなかったのはなぜか(%)

	行く暇がなかった	行く必要がなかった	行く発想がなかった
日本(n=384)	13.8	66.1	19.0
韓国(n=108)	13.9	38.9	47.2
中国(n=175)	17.7	24.6	57.7

表12-4 何軒の医者を訪ねたか(%)

	1軒	2~5軒くらい	それ以上
日本(n=280)	52.9	46.4	0.7
韓国(n=88)	63.6	30.7	5.7
中国(n=299)	71.2	26.1	2.7

表12-5 一番多くかかった医師の性別(%)

	男性	女性
日本(n=282)	91.5	8.5
韓国(n=105)	80.0	20.0
中国(n=291)	7.9	92.1

治療について

表12-6 かかった医師は更年期に深い理解があったか(%)

	おおむね適切で新設だった	診断が正しくなかった	不親切で患者のつらさに理解がなかった	その他
日本(n=282)	75.5	8.9	6.0	9.6
韓国(n=98)	71.4	19.4	6.1	3.1
中国(n=290)	67.2	20.0	10.3	2.4

表12-7 医療機関でホルモン療法を受けたか(%)

	受けた	受けない	受けたいと思う	知らなかった	その他
日本(n=293)	29.0	53.9	3.1	10.6	3.4
韓国(n=115)	18.3	12.2	55.7	9.6	4.3
中国(n=269)	16.4	17.1	6.3	55.4	4.8

表13 一番親身に相談にのってくれた人

	M.A.		
	日本 (n=748)	韓国 (n=179)	中国 (n=647)
1 夫	17.2	20.1	62.4
2 娘	7.9	12.3	28.1
3 息子	1.5	1.1	8.3
4 夫の母	0.8	0.6	0.2
5 自分の母	5.2	1.1	11.9
6 姉妹	7.6	8.4	13.6
7 女の友人	33.2	28.5	23.5
8 男の友人	0.8	0.0	0.5
9 職場の同僚	7.0	11.2	16.5
10 外部の相談機関	1.3	0.6	0.3
11 その他	1.1	1.1	0.3
12 誰にも相談しなかった	22.5	15.1	3.2

表14 閉経後の性生活

	M.A.		
	日本 (n=746)	韓国 (n=204)	中国 (n=647)
1 妊娠の心配がなく解放感がある	31.4	12.3	24.6
2 以前と変わらない	14.6	18.1	19.9
3 回数が減った	20.2	15.2	29.1
4 性交時に痛みがある	15.9	10.3	10.0
5 セックスへの意欲がわかなくなった	23	25	25.7
6 セックスは嫌だが、夫に悪いので仕方ないと思う	13.7	18.1	12.4
7 夫が求めなくなったので淋しい	2.1	2.5	1.1
8 その他	6.7	3.9	3.1

表15 夫との関係

日本 (n=609)				
	かなりそ う思う	ややそ う思う	あまり思 えない	全然ない
A 妻の更年期について正しく理解していた	18.2	42.7	30	9
B 更年期の妻に対して気遣いや思いやりがあった	19.3	35.9	34.8	10
C 具体的に家事などを手伝ってくれた	31.7	28.2	27.2	13.0
D 話し相手になったり外出に誘ったりしてくれた	28.9	29.4	27.5	14.2
韓国 (n=148)				
	かなりそ う思う	ややそ う思う	あまり思 えない	全然ない
A 妻の更年期について正しく理解していた	21.6	22.3	37.8	18.2
B 更年期の妻に対して気遣いや思いやりがあった	20.1	29.5	34.2	16.1
C 具体的に家事などを手伝ってくれた	22.8	28.2	30.9	18.1
D 話し相手になったり外出に誘ったりしてくれた	26.8	35.6	24.8	12.8
中国 (n=453)				
	かなりそ う思う	ややそ う思う	あまり思 えない	全然ない
A 妻の更年期について正しく理解していた	38.6	38.4	16.2	6.8
B 更年期の妻に対して気遣いや思いやりがあった	37.3	41.7	13.2	7.7
C 具体的に家事などを手伝ってくれた	33.4	45.6	16.0	5.0
D 話し相手になったり外出に誘ったりしてくれた	31.3	38.6	19.6	10.4

表16 更年期の頃抱えていた問題

	M.A.		
	日本 (n=738)	韓国 (n=204)	中国 (n=647)
1 子どもの受験	27.0	31.9	33.5
2 子どもの恋愛、結婚	17.3	18.1	43.3
3 子どもが独立	15.7	7.8	30.3
4 子どもがいつまでも自立(結婚)しない	8.9	22.5	11.6
5 嫁・姑との不和	5.5	10.8	9.6
6 夫は仕事一筋	16.7	2.9	7.3
7 夫の転勤	5.6	0.5	4.2
8 夫の単身赴任	7.4	2.5	4.8
9 夫の定年やリストラ	5.6	17.6	7.3
10 夫の病気	6.4	6.9	15.0
11 夫との離別・死別	3.2	3.4	2.8
12 夫の親の介護	15.4	9.8	12.5
13 自分の親の介護	17.3	7.8	18.9
14 自分の定年やリストラ	2.6	7.8	14.5
15 仕事の多忙さによるストレス	22.7	22.5	11.9
16 職場の人間関係	14.4	8.8	5.3
17 自分の異性問題	1.1	1.5	0.8
18 夫の異性問題	1.9	2.0	2.8
19 親族関係のトラブル	7.0	3.9	4.2
20 老後の生活設計がしにくい	8.6	13.2	14.4
21 住宅の購入や増改築	13.5	16.7	26.0
22 その他	6.0	5.4	1.7

表17 更年期を乗り切る上でよかったこと

	M.A.		
	日本 (n=737)	韓国 (n=204)	中国 (n=647)
1 やりがいのある職業または社会活動で、忙しく毎日を充実させる	57.3	53.4	51.3
2 打ち込める趣味がある	37.3	38.2	47.1
3 おしゃべりなどストレス発散を助け合う友人がいること	52.8	39.7	37.7
4 旅行、外出、買い物などストレスを発散する経済力がある	36.2	32.4	33.2
5 あれこれ欲張らずに休暇・休息をとる	25.5	29.9	39.1
6 酒やたばこなど嗜好品をたしなむ	3.7	8.3	2.0
7 夫が共感、同情を示してくれる	12.9	13.7	51.5
8 夫があまり家にいないので自分の時間が持てる	9.5	12.3	9.3
9 大学へ再入学したり、各種講座で学習するなど新しい目標を作る	12.2	5.4	7.9
10 子どもがやさしく共感、同情を示してくれる	8.3	14.7	40.8
11 老親が健康で、介護負担が重ならないこと	13.3	6.4	20.1
12 医療機関がよい	8.8	9.3	17.2
13 ホルモン療法が適して効果がある	3.9	16.2	8.5
14 中高年女性の自信を強めるような相談機関・カウンセラーがいる	5.4	6.4	16.2
15 「もう女でなくなった」などと自分も周囲も思わない	22.2	6.4	13.8
16 その他	3.5	2.9	0.6
17 特別に努力はしなかった	23.8	9.8	5.1

表18 更年期対策

	M.A.		
	日本 (n=738)	韓国 (n=204)	中国 (n=647)
1 更年期をプラスイメージでとらえる社会意識づくり	52.2	45.1	54.3
2 女性自身が更年期について正確な知識を持ち、冷静に対応する	77.8	47.5	74.5
3 更年期の女性側の状況や意識について医療関係者がよく認識する	25.2	15.2	51.0
4 更年期について適切でアクセスしやすい相談機関の充実	34.5	31.4	36.9
5 更年期についてもっと豊富な情報提供が行われること	39.4	39.7	13.6
6 更年期についてのタテワリではない総合的機関の設置	13.7	17.6	46.7
7 更年期について適切な治療を行ったり、精神的なケアなどの対応が出来る人材の育成	36.6	11.3	40.0
8 更年期について夫や男性が適切な対応をするように、社内研修や社会教育の実施	22.0	14.2	33.8
9 職場で若年男女に更年期女性への理解をすすめる	16.9	14.2	30.3
10 更年期休暇などを設け、休みを取りやすくする	21.7	16.7	52.6
11 深夜勤には配慮するなど更年期の労働条件をよくして欲しい	16.4	8.8	47.4

更年期中の働き方

表19-1 更年期中の勤務形態

	日本 (n=298)	韓国 (n=123)	中国 (n=382)
フルタイム	63.8	41.5	82.5
パート	21.1	25.2	8.1
非常勤	5.0	...	9.2
その他	10.1	26.8	0.3

表19-2 職場での地位

	日本 (n=240)	韓国 (n=119)	中国 (n=231)
管理職(部下あり)	27.1	11.8	22.9
管理職(部下なし)	4.6	15.1	21.2
管理職ではないがベテランとして責任が重し	45.0	26.1	29.9
若い人とそう変わりなし	23.3	30.3	26.0

表19-3 更年期中の仕事の特徴

	M.A.		
	日本 (n=456)	韓国 (n=161)	中国 (n=578)
1 立ったり歩いたり身体を使うものだった	23.5	28.0	34.8
2 仕事の量が多く、長時間労働だった	21.5	13.7	20.9
3 早朝・深夜勤務など働き方が不規則	4.8	14.3	15.9
4 出張・残業などが多かった	9.9	6.2	5.0
5 難しい仕事が多く責任が重い	21.3	21.7	22.3
6 営業や折衝、接待など社内外とのつきあいが多し	4.2	6.8	3.3
7 「更年期」について職場の同僚などにあてこすりを言われた	0.7	3.7	5.0
8 職場の人間関係等で神経を使う	20.4	15.5	9.7
9 組合の仕事など本来の仕事以外のものが忙しかった	2.6	19.9	3.3
10 仕事が孤独で相談相手がいない	4.4	9.9	5.7
11 同じ仕事をしていても同僚男性よりも賃金が安かった	3.9	3.7	10.4
12 責任のある仕事やポストが与えられていなかった	2.0	3.1	13.1
13 その他	7.0	3.7	4.5

表19-4 工作中的の精神状態

	M.A.		
	日本 (n=456)	韓国 (n=161)	中国 (n=578)
1 仕事楽しく生き生きしていた	18.0	16.8	27.8
2 やりあいのある仕事で満足していた	27.9	26.1	37.2
3 実績が評価されて達成感があった	15.6	16.8	22.3
4 仕事を通して人間関係の財産ができた	26.2	24.8	25.4
5 仕事を理解してくれる家族や友人がいた	26.8	28.6	39.3
6 仕事をやりこなす能力や体力に不安があった	16.4	21.7	7.6
7 転職したいと悩んでいた	4.4	7.5	7.3
8 こんな仕事で一生を終えるのかと憂鬱だった	5.5	24.2	8.7
9 家族のことなどで悩みが多く両立が不安だった	7.0	19.9	14.9
10 職場でのストレスが多く忍耐することが多かった	14.9	23.6	30.4
11 その他	3.1	3.7	2.6

付. 更年期意識調査票 (和文)

※ あなたについてお尋ねします。

A あなたの年齢 ( ) 歳

以下は該当するものの数字に○印をつけてください

B あなたは現在 1 シングル ⇒ ( 1 未婚 2 離別 3 死別 )  
2 有配偶 ⇒ 配偶者の年齢 ( ) 歳 職業 ( )

C こどもの人数 1 なし 2 1人 3 2人 4 3人以上

D 現在同居の家族等

1 自分ひとり 2 夫婦のみ 3 夫婦と息子のみ 4 夫婦と息子夫婦のみ  
5 夫婦と息子夫婦、孫 6 夫婦と娘のみ 7 夫婦と娘夫婦のみ 8 夫婦と娘夫婦、孫  
9 夫婦と夫の両親 10. 夫婦と夫の父 11. 夫婦と夫の母 12. 夫婦と自分の両親  
13. 夫婦と自分の父 14. 夫婦と自分の母 15. 自分と自分の親 16. 自分と夫の親  
17. その他 ( )

E 職業の経験 1 あり ( 1 現在就業中 2 過去に就業 ) 2 なし

↓

※ 下記にお答えください

- a 現在のお仕事の収入は大きく生活を支えていますか 1 はい 2 いいえ  
b 現在のお仕事は 1 ずっと続けてきた 2 中断して再雇用 3 再就職  
c 仕事と家庭の中で自由時間は 1 かなりある 2 少しある 3 ない  
d あなたの職業は 1 雇用で正社員 2 雇用でパート 3 農業  
4 自営業(農業を除く) 5 自由業 6 その他 ( )  
f 最終卒業校 1 中学(旧制高等小学校を含む) 2 高校 3 旧制高等女学校  
4 専門学校 5 短大 6 大学(旧制専門学校を含む)  
7 大学院以上

◎ あなたの更年期について(問1～問6)思ったままで結構ですでお答えください。

問1 あなたの更年期はいつだと思えますか。ひとつだけ選んでください。

- 1 自分には更年期などなかった。  
2 いま、更年期真っ只中 ⇒ 現在 ( ) 年目  
3 更年期は終わった ⇒ 更年期だと思った期間 ( ) 歳～( ) 歳  
4 まだこれからで分からない

問2 あなたは更年期についてどう感じてますか。更年期以前の方はイメージで結構ですから、感じているままをお答えください。

- A ホットした解放感を持つ 1 はい 2 いいえ 3 どちらとも  
B 女でなくなったという複雑な思い 1 はい 2 いいえ 3 どちらとも  
C 老いの入口で淋しさを感じる 1 はい 2 いいえ 3 どちらとも  
D 夫に相手にされないのではと思う 1 はい 2 いいえ 3 どちらとも  
E 社会一般から女性扱いされないのではと思う 1 はい 2 いいえ 3 どちらとも  
F その他 ( )

問3 あなたが更年期に感じた症状は?当てはまるものにはいくつでも○をつけてください。特に強かった症状には◎をつけてください。

<主として身体的症状>

- 1 のぼせ、ほてり、発汗 14. 月経期間の延長

- |     |            |     |             |
|-----|------------|-----|-------------|
| 2   | むくみ        | 15. | 腰痛          |
| 3   | 冷え         | 16. | 頭痛          |
| 4   | めまい        | 17. | 腹痛          |
| 5   | 動悸         | 18. | 関節痛         |
| 6   | 耳鳴り        | 19. | 便秘          |
| 7   | 息切れ        | 20. | 円形脱毛症など     |
| 8   | 肩凝り        | 21. | 子宮筋腫関連の悩み増幅 |
| 9   | しびれ        | 22. | 性交痛         |
| 10. | 皮膚のかゆみ     | 23. | その他 (       |
| 11. | トイレが近くなった  | 24. | 性欲減退        |
| 12. | 尿もれ        | 25. | 何もなかった      |
| 13. | 月経の量が多くなった |     |             |

＜主として精神的症状＞

- |   |       |     |         |
|---|-------|-----|---------|
| 1 | イライラ  | 6   | 不安感     |
| 2 | うつ状態  | 7   | 対人関係が苦痛 |
| 3 | 不眠    | 8   | 自信喪失    |
| 4 | 眠りが浅い | 9   | その他 ( ) |
| 5 | 無力感   | 10. | 何もなかった  |

◎ 以下の問4、問5は何らかの更年期症状があった方にお尋ねします

問4 あなたは更年期の症状を軽減または治療するためにどこかを訪ねましたか。

- |   |            |   |
|---|------------|---|
| 1 | 医療機関       | と答えた方は下記の問にお答えください                          |
| 2 | 医療機関以外     |   |
| 3 | 電話相談など     |   |
| 4 | どこへも行かなかった | イ. 行く暇がなかった<br>ロ. 行く必要がなかった<br>ハ. 行く発想がなかった |

問4-1 あなたは何軒のお医者さんを訪ねましたか。総合病院の場合は、1診療科を1軒と数えてください。

- |   |    |   |         |   |      |
|---|----|---|---------|---|------|
| 1 | 1軒 | 2 | 2～5軒くらい | 3 | それ以上 |
|---|----|---|---------|---|------|

問4-2 かかった医師の診療科は何科ですか。

- |   |      |   |     |   |          |   |         |
|---|------|---|-----|---|----------|---|---------|
| 1 | 産婦人科 | 2 | 内科  | 3 | 皮膚科      | 4 | 心療内科    |
| 5 | 神経科  | 6 | 精神科 | 7 | 外科(整形外科) | 8 | その他 ( ) |

問4-3 一番多くかかった医師は男性でしたか、女性でしたか。

- |   |    |   |    |
|---|----|---|----|
| 1 | 男性 | 2 | 女性 |
|---|----|---|----|

問4-4 かかったお医者さんは、更年期に深い理解があると思われましたか。

- |   |                    |
|---|--------------------|
| 1 | おおむね適切で親切だった       |
| 2 | 診断が正しくなかった         |
| 3 | 不親切で患者のつらさに理解がなかった |
| 4 | その他 ( )            |

問4-5 医療機関であなたはホルモン療法を受けましたか

- |   |            |    |              |
|---|------------|----|--------------|
| 1 | 受けた        | イ. | 受けてよかったと思う   |
|   |            | ロ. | よくなかった(※理由 ) |
| 2 | 受けない(※理由 ) |    |              |
| 3 | 受けたいと思う    |    |              |
| 4 | 知らなかった     |    |              |

5 その他 ( )

問5 医療機関の他には誰が一番親身になって相談に乗ってくれましたか。

- 1 夫 2 娘 3 息子 4 夫の母 5 自分の母 6 姉妹  
7 女の友人 8 男の友人 9 職場の同僚

10. 外部の相談機関 (※どんなところか具体的に )

11. その他 ( )

12. 誰にも相談しなかった (※理由 )

問6 閉経後の方にお尋ねします。性生活について該当する数字にいくつでも○を

- 1 妊娠の心配がなく解放感がある  
2 以前と変わらない  
3 回数が減った  
4 性交時に痛みがある  
5 セックスの意欲がわかなくなった  
6 セックスは嫌だが、夫に悪いので仕方ないと思う  
7 夫が求めなくなったので淋しい  
8 その他 ( )

◎ 更年期と夫や家族、職場の関係、解決の方法などについてうかがいます。特に更年期症状のない方でも、ほぼ該当年令と思われる方はお答えください。(問7～問10)

問7 更年期の頃、あなたと夫との関係はどのようなものでしたか。

線の上に○印をつけてください。

- A 夫は妻の更年期について正しく理解していたか  
B 更年期の妻に対して気遣いや思いやりがあったか  
C 具体的に家事などを手伝ってくれたか  
D 話相手になったり外出に誘ったりしてくれたか

問8 更年期の頃、あなたは次のような問題を抱えていましたか。該当する項目の数字にいくつでも○を。特に重大だったものには◎をつけてください。

- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| 1 こどもの受験             | 12. 夫の親の介護        |
| 2 こどもの恋愛、結婚          | 13. 自分の親の介護       |
| 3 こどもが独立             | 14. 自分の定年やリストラ    |
| 4 こどもがいつまでも自立(結婚)しない | 15. 仕事の多忙さによるストレス |
| 5 嫁・姑との不和            | 16. 職場の人間関係       |
| 6 夫は仕事一筋             | 17. 自分の異性問題       |
| 7 夫の転勤               | 18. 夫の異性問題        |
| 8 夫の単身赴任             | 19. 親族関係のトラブル     |
| 9 夫の定年やリストラ          | 20. 老後の生活設計がしにくい  |
| 10. 夫の病気             | 21. 住宅の購入や増改築     |
| 11. 夫との離別・死別         | 22. その他 ( )       |

問9 更年期を乗り切る上でよかったと思われることは、どんなことですか。該当するものにいくつでも○を。中で一番よかったと思われるものひとつに◎を。

- 1 やりがいのある職業または社会活動で、忙しく毎日を充実させる  
2 打ち込める趣味がある  
3 おしゃべりなどストレス発散を助け合う友人がいること  
4 旅行、外出、買物などストレスを発散する経済力がある  
5 あれこれ欲張らずに休暇・休息をとること  
6 酒やたばこなど嗜好品をたしなむこと

- 7 夫が共感、同情を示してくれること
- 8 夫があまり家にいないので自分の時間が持てること
- 9 大学へ再入学したり、各種講座で学習するなど新しい目標をつくること
10. こどもがやさしく共感同情を示してくれること
11. 老親（夫と自分の）が健康で、介護負担が重ならないこと
12. 医療機関が良いこと（主治医が適切な治療や精神的なサポートをしてくれる）
13. ホルモン療法が適して効果があること
14. 中高年女性の自信を強めるような相談機関、カウンセラーがいること
15. 「もう女でなくなった」などと自分も周囲も思わないこと
16. その他（ ）
17. 特別に努力はしなかった（していない）

問10 女性が更年期を健やかに過ごすために、今後どんな対策が必要だと思いますか。

必要だと思うものいくつかでも○を、特に必要と思うものには◎をつけてください。

- 1 更年期をプラスイメージでとらえる社会的意識づくり
- 2 女性自身が更年期について正確な知識を持ち、冷静に対応すること
- 3 更年期の女性側の状況や意識について医療関係者がよく認識すること
- 4 更年期について適切でアクセスしやすい相談機関の充実
- 5 更年期についてもっと豊富な情報提供が行なわれること（電話サービス、保健所、女性センターなどの個人相談）
- 6 更年期についてのタテワリではない総合的機関の設置
- 7 更年期について適切な治療を行ったり、精神的なケアなどの対応ができる人材の育成
- 8 更年期について夫や男性が適切な対応をするように、社内研修や社会教育の実施
- 9 職場で若年男女に更年期女性への理解をすすめる
10. 更年期休暇などを設け、休みを取りやすくする
11. 深夜勤には配慮するなど更年期の労働条件をよくしてほしい
- ◎ ご協力ありがとうございました。更年期について日頃感じておられること、今後望みたいこと、本日の感想などお書きいただければ幸いです。ご意見を参考にさせていただきます。

（自由記述）

付、更年期意識調査票（中国語）

为了了解围更年期妇女的生活质量及其要求，我们进行初步的预调查。这将是我們进行大规模调查和向政府决策提供科学信息的依据。请您按实际情况填写，如有些问题您有几项选择，可同时填上，不用记名。谢谢您的合作。

北京大学人口研究所  
WHO 生殖健康与人口科学合作研究中心  
中国心血管学会

## 更年期妇女生殖健康调查

A、您的年龄为（        ）岁

B、您现在是：

- 1、单身            ① 未婚\_\_\_\_\_      ② 离婚\_\_\_\_\_      ③ 丧偶\_\_\_\_\_
- 2、已婚            您丈夫的年龄为（        ）岁，他的职业为（        ）

C、您有几个孩子？

- 1、没有孩子\_\_\_\_\_    2、一个孩子\_\_\_\_\_    3、两个\_\_\_\_\_    4、三个以上\_\_\_\_\_

D、与您同住的家庭成员构成情况：

- 1、自己一个人\_\_\_\_\_    2、夫妇俩\_\_\_\_\_    3、夫妇和已婚子女（包括孙子辈）\_\_\_\_\_
- 4、夫妇和未婚子女\_\_\_\_\_    5、夫妇和父母（双方或一方、包括自己的父母、丈夫的父母）\_\_\_\_\_
- 6、自己和已婚子女（包括孙子辈）\_\_\_\_\_    7、自己和未婚子女\_\_\_\_\_
- 8、自己和父母（双方或一方、包括自己的父母、丈夫的父母）\_\_\_\_\_    9、其他（        ）

E、您有工作经验吗？

- 1、有（ ①现在还在工作\_\_\_\_\_    ②过去工作过\_\_\_\_\_ ）    2、没有\_\_\_\_\_

选择“有”的，请再回答以下问题：

a. 现在的收入对维持您的生活很有帮助吗？

- 1、是的\_\_\_\_\_    2、不是\_\_\_\_\_

b. 现在工作的持续情况：

- 1、过去一直持续到现在\_\_\_\_\_    2、一时中断过\_\_\_\_\_    3、重新就业\_\_\_\_\_

c. 在工作和家庭中，您所拥有的自由时间是：

- 1、有许多\_\_\_\_\_    2、有一些\_\_\_\_\_    3、没有\_\_\_\_\_

d. 您的职业：

- 1、正式职工\_\_\_\_\_    2、临时工\_\_\_\_\_    3、农业\_\_\_\_\_
- 4、个体经营（农业除外）\_\_\_\_\_    5、自由业\_\_\_\_\_    6、其他（        ）

F、您的最高学历

- 1、小学以下\_\_\_\_\_    2、小学\_\_\_\_\_    3、初中\_\_\_\_\_    4、高中\_\_\_\_\_
- 5、中专、技校\_\_\_\_\_    6、大专\_\_\_\_\_    7、大学\_\_\_\_\_    8、研究生（或更高学历）\_\_\_\_\_

**第一部分：更年期时间**（您的更年期是从什么时间开始的）这一部分问题只能选择一个答案

- 1、没有经历更年期\_\_\_\_\_
- 2、现在正在经历更年期，现在是更年期的第\_\_\_\_\_年
- 3、更年期已经结束，您的更年期是从\_\_\_\_\_岁开始到\_\_\_\_\_岁结束的
- 4、还没有开始，不太清楚\_\_\_\_\_

**第二部分：对更年期的态度**（您对更年期的看法，没有经历的，请凭印象回答）

- |                 |          |           |             |
|-----------------|----------|-----------|-------------|
| A、松了一口气，有解放了的感觉 | 1、是_____ | 2、不是_____ | 3、都说不上_____ |
| B、不象女人了，心情很复杂   | 1、是_____ | 2、不是_____ | 3、都说不上_____ |
| C、正要进入老年，感到寂寞   | 1、是_____ | 2、不是_____ | 3、都说不上_____ |
| D、担心丈夫不那么理睬自己了  | 1、是_____ | 2、不是_____ | 3、都说不上_____ |
| E、担心不再被社会当作女性对待 | 1、是_____ | 2、不是_____ | 3、都说不上_____ |
| F、其他（_____）     |          |           |             |

**第三部分：更年期的症状**（更年期中，您感觉到有什么症状？合适的答案都请画√，请在感觉特别强烈的症状上划○）

（表现在身体上的主要症状）

- |                    |                |            |                |
|--------------------|----------------|------------|----------------|
| 1、上火、发热、盗汗_____    | 2、浮肿_____      | 3、寒症_____  | 4、头晕_____      |
| 5、心悸_____          | 6、耳鸣_____      | 7、气喘_____  | 8、肩膀酸痛_____    |
| 9、麻木_____          | 10、皮肤发痒_____   | 11、尿频_____ | 12、溢尿_____     |
| 13、月经量增多_____      | 14、月经期延长_____  | 15、腰痛_____ | 16、头痛_____     |
| 17、腹痛_____         | 18、关节疼痛_____   | 19、便秘_____ | 20、圆形秃毛症等_____ |
| 21、有关子宫的病变、烦恼_____ | 22、性生活时疼痛_____ | 23、其他_____ |                |
| 24、性欲减退_____       | 25、什么也没有_____  |            |                |

（表现在精神上的主要症状）

- |             |             |                  |              |
|-------------|-------------|------------------|--------------|
| 1、情绪急躁_____ | 2、心情郁闷_____ | 3、失眠_____        | 4、睡眠不深_____  |
| 5、没力气_____  | 6、感到不安_____ | 7、不愿见人、与人相处_____ | 8、丧失自信心_____ |
| 9、其他（_____） |             | 10、什么也没有_____    |              |

※有以上任何更年期症状出现的，都请回答第四、五部分的问题

**第四部分 更年期就医情况**（为了减轻以及治疗您的更年期诸症状，您去过什么地方看过病？）

- 1、医疗机构\_\_\_\_\_ 请继续回答问题 4-1 至 4-5
- 2、医疗机构以外的地方\_\_\_\_\_ 3、进行电话咨询等\_\_\_\_\_
- 4、哪儿也没去\_\_\_\_\_ ①没有时间\_\_\_\_\_ ②没有必要\_\_\_\_\_ ③没有想过要去\_\_\_\_\_
- 4-1 您总共去看过几家医院？（大型综合医院的一个科，也算作一家）
  - 1、1家\_\_\_\_\_
  - 2、2—5家\_\_\_\_\_
  - 3、更多\_\_\_\_\_
- 4-2 您看的是什么科？

- 1、妇产科\_\_\_\_\_ 2、内科\_\_\_\_\_ 3、皮肤科\_\_\_\_\_ 4、心疗内科（附有心理咨询的内科）\_\_\_\_\_
- 5、神经科\_\_\_\_\_ 6、精神科\_\_\_\_\_ 7、外科（整形外科）\_\_\_\_\_ 8、其他（\_\_\_\_\_）

4-3 给您看病的医生绝大多数是男性、还是女性？

- 1、男性\_\_\_\_\_ 2、女性\_\_\_\_\_

4-4 您觉得那些医生对于更年期有更进一步的理解吗？

- 1、大部分还是处理得当、态度亲切\_\_\_\_\_ 2、诊断的并不正确\_\_\_\_\_
- 3、既不亲切又不理解患者的痛苦\_\_\_\_\_ 4、其他（\_\_\_\_\_）

4-5 在医疗机构，您接受过荷尔蒙（激素）疗法吗？

- 1、接受过\_\_\_\_\_ a、觉得该疗法不错\_\_\_\_\_ b、不好（其理由为\_\_\_\_\_）
- 2、没有接受（其理由为\_\_\_\_\_） 3、想接受\_\_\_\_\_
- 4、不知道\_\_\_\_\_ 5、其他（\_\_\_\_\_）

### 第五部分：除了医院外，您和谁最亲密，可以与之商量？

- 1、丈夫\_\_\_\_\_ 2、女儿\_\_\_\_\_ 3、儿子\_\_\_\_\_ 4、婆婆\_\_\_\_\_ 5、自己的母亲\_\_\_\_\_ 6、姐妹\_\_\_\_\_
- 7、女性朋友\_\_\_\_\_ 8、男性朋友\_\_\_\_\_ 9、同事\_\_\_\_\_ 10、外面的咨询处（具体为\_\_\_\_\_）
- 11、其他（例如\_\_\_\_\_） 12、和谁都没商量（因为\_\_\_\_\_）

### 第六部分：您在闭经后，关于您的性生活情况请任意选择并划√

- 1、不用担心怀孕，感到解放\_\_\_\_\_ 2、和以前一样，没有变化\_\_\_\_\_ 3、次数减少了\_\_\_\_\_
- 4、性生活时感到疼痛\_\_\_\_\_ 5、没有了性生活的热情\_\_\_\_\_
- 6、虽然讨厌性生活，但为了丈夫，感到无奈\_\_\_\_\_ 7、因为丈夫不再有这方面的要求，感到寂寞\_\_\_\_\_
- 8、其他（\_\_\_\_\_）

※ 关于更年期出现的与丈夫、家庭成员、同事间的关系的变化及其解决的方法（第七——第十部分）。即使尚未出现任何更年期症状，但差不多到了更年期年龄的，也请回答。

### 第七部分：更年期与丈夫的关系

（处于更年期，您和您的丈夫的关系如何？请在相对应的答案上划√。）

	很有同感	有一些同感	基本上没有同感	完全不这么想
A、丈夫对于妻子的更年期能够正确地理解				
B、对妻子的更年期表示过关心和体贴				
C、具体来说，帮忙做一些家务之类的				
D、作和您谈话的对象，邀请您外出				

### 第八部分：处于更年期的时候，您是否有这些问题吗？可多选，特别重要的请划○

- 1、孩子的升学考试\_\_\_\_\_ 2、孩子的恋爱、结婚\_\_\_\_\_ 3、孩子的独立\_\_\_\_\_
- 4、孩子老是不自立（结婚成家）\_\_\_\_\_ 5、婆媳不和\_\_\_\_\_ 6、丈夫只关心工作\_\_\_\_\_
- 7、丈夫的调动工作\_\_\_\_\_ 8、丈夫单身前往外地工作\_\_\_\_\_

- 9、丈夫的退休、下岗\_\_\_\_\_ 10、丈夫生病\_\_\_\_\_ 11、分居、离婚、丧夫\_\_\_\_\_
- 12、丈夫父母的护理\_\_\_\_\_ 13、自己父母的护理\_\_\_\_\_ 14、自己的退休、下岗\_\_\_\_\_
- 15、工作太忙而引起的情绪紧张\_\_\_\_\_ 16、和同事的人际关系问题\_\_\_\_\_
- 17、自己的异性问题\_\_\_\_\_ 18、丈夫的异性问题\_\_\_\_\_ 19、亲戚之间发生纠纷\_\_\_\_\_
- 20、对于年老后的生活难以设计\_\_\_\_\_ 21、买房、装修改筑\_\_\_\_\_
- 22、其他（\_\_\_\_\_）

**第九部分：您认为能够顺利地渡过更年期的主要原因是什么？**可多选，特别重要的请划○

- 1、有意义的工作和社会活动让每一天过得忙碌又充实\_\_\_\_\_
- 2、拥有可以全身心投入的兴趣爱好\_\_\_\_\_
- 3、拥有可以借助聊天，消除精神紧张的朋友\_\_\_\_\_
- 4、拥有一定的经济能力、可以通过旅行、外出、购物来消除精神紧张\_\_\_\_\_
- 5、对各种事情都不贪心，享有假期和休息\_\_\_\_\_
- 6、享受烟、酒等嗜好\_\_\_\_\_
- 7、丈夫表示了理解与同情\_\_\_\_\_
- 8、因为丈夫老是不在家，有自己的自由时间\_\_\_\_\_
- 9、通过再上大学，或参加各种讲座等学习，确立新的目标\_\_\_\_\_
- 10、孩子很懂事，表示了理解与同情\_\_\_\_\_
- 11、（双方的）父母都还很健康，没有繁重的护理负担\_\_\_\_\_
- 12、有很好的医疗机关（主治医生提供了适当的治疗和精神援助）\_\_\_\_\_
- 13、接受了适当有效的激素疗法\_\_\_\_\_
- 14、有增强老年自信心的咨询机关，心理咨询技术人员\_\_\_\_\_
- 15、自己和周围的人都不认为“更年期的女人”已经不是女人了\_\_\_\_\_
- 16、其他（\_\_\_\_\_）
- 17、没有做（过）什么特别的努力\_\_\_\_\_

**第十部分：您认为采取什么样的对策有益于妇女更年期的健康？**

（在您认为有必要的答案上划√，特别有必要的答案上划○）

- 1、在社会中形成更年期具有正面印象的社会意识\_\_\_\_\_
- 2、女性自身能够掌握关于更年期的正确知识，冷静地对待更年期\_\_\_\_\_
- 3、医疗工作者能够充分理解处于更年期的女性的状况和意识\_\_\_\_\_
- 4、进一步充实便利的，就更年期问题能够提供适当建议的咨询机关\_\_\_\_\_
- 5、更多地提供有关更年期的各种丰富的情报（可以进行个人咨询的电话服务、保健所、女性中心等）
- 6、设立关于更年期的综合服务机构\_\_\_\_\_
- 7、培养一批有能力为更年期女性提供医疗服务和精神关怀的人才\_\_\_\_\_
- 8、为了让男性更能理解更年期的女性，展开相关的社会教育\_\_\_\_\_
- 9、在工作单位，建议男女青年进一步理解更年期女性\_\_\_\_\_
- 10、设立更年期休假，使更年期女性能得到比较充分的休息\_\_\_\_\_
- 11、尽量改善更年期女性的劳动条件，避免从事夜班等对身体不利的工种\_\_\_\_\_

**第十一部分：请问有关您的工作情况**（仍在更年期中，并且继续上班）

- A、您现在的职业是 1、全天上班（正式工作人员）\_\_\_\_\_ 2、临时工\_\_\_\_\_ 3、其他（\_\_\_\_\_）
- B、现在的职位是 1、管理人员（有部下）\_\_\_\_\_ 2、管理人员（没有部下）\_\_\_\_\_
- 3、虽然不是管理人员，但作为经验工作者责任很重\_\_\_\_\_
- 4、和刚进单位一样，没有变化\_\_\_\_\_

**第十二部分：请问有关您的更年期和您工作之间的关系**（可多项选则）

- 1、要站呀、走呀经常运用身体的工作\_\_\_\_\_ 2、工作量大、时间长的劳动\_\_\_\_\_
- 3、有早班、夜班等上班时间很不规则的工作\_\_\_\_\_ 4、经常有出差，加班之类的工作\_\_\_\_\_
- 5、工作很难，责任很重\_\_\_\_\_ 6、营销、谈判、接待等与单位内、外的交际很多\_\_\_\_\_
- 7、被同事讲过有关“更年期”的讥讽的话\_\_\_\_\_ 8、为搞好同事关系很费神、伤脑筋\_\_\_\_\_
- 9、工会工作等本职工作以外的事务繁忙\_\_\_\_\_ 10、工作很孤独，没有可以商量的对象\_\_\_\_\_
- 11、和男性同事做一样的工作，但比男性同事工资低\_\_\_\_\_
- 12、没有被安排过要负责的、有一定职位的工作\_\_\_\_\_ 13、其他（\_\_\_\_\_）

**第十三部分：在做您的工作时，您的精神状态如何**（可多项选择）

- 1、工作很愉快，感到生气勃勃\_\_\_\_\_ 2、是有意义的工作，感到满足\_\_\_\_\_
- 3、工作成绩得到正确评价，有成就感\_\_\_\_\_ 4、通过工作建立了良好的人际关系\_\_\_\_\_
- 5、拥有理解您工作的家人和朋友\_\_\_\_\_
- 6、对自己是否有能力与体力更好地完成工作任务而感到不安\_\_\_\_\_
- 7、为是否改行而感到烦恼\_\_\_\_\_
- 8、为一辈子做这样的工作而感到郁闷\_\_\_\_\_
- 9、有许多家庭的烦恼，为家庭与事业能否两立感到不安\_\_\_\_\_
- 10、常常由于工作，精神处于紧张状态，需要克制忍耐\_\_\_\_\_
- 11、其他（\_\_\_\_\_）

感谢您的协助！关于更年期您还有什么想法，以及对今后有什么愿望、要求、都请写下来，我们会参考您的意见。（纸张不够的话，可写在反面）。

---

您的意见与感想：

# 80代以上健康女性の聞き取り調査

## 序論 一高齢女性の健康は社会の財産一

樋口 恵子

1994年、国連の国際人口開発会議は激論の末リプロダクティブ・ライツ／ヘルスの概念を確立した「カイロ行動計画」を採択した。この「カイロ行動計画」は人口にかかわる内容であるから、もちろん人口構造の高齢化にも、高齢者自身にも言及している。第6章「人口増加と構造」C項においては「高齢者」(olderly people)について簡潔かつ明瞭に述べている。

人口の構造的高齢化は、いずれ世界に広がる基本的な変化(change)であり、それは社会にとって(よりよい社会をつくるための)絶好のチャンス(opportunity)であり、課題(challenge)である、と述べている。人類社会にとって高齢化は必然の未来であることを自覚し、その到来を積極的に受けとめ、社会保障をはじめとする社会的経済的計画などの見直しを含めて、前向きに取り組むことを提言している。また、高齢者はできる限り自立してその地域の中に住みつけ、かつ高齢者自身さまざまな経験を生かして社会に貢献できる社会的資源であることを指摘している。とはいえ加齢と共に介護を要する例も多くなる。介護する家族にたいして支援するよう呼びかけている。

その「高齢者」(第6章の中の6.16から6.20まで)の報告書2ページの簡潔な文章の中で女性(women)という語が4回も登場していることは注目に値する。すなわち、現状認識の部分で「ほとんどの社会で男性よりも長生きの女性が高齢人口の半数以上を占め、多くの国で高齢の貧しい女性は弱い状態におかれている」(傍点筆者、以下同じ)。

具体的な行動目標に言及した部分については「高齢期の社会保障制度とヘルスケアをすすめるにあたって、女性のニーズに特別の配慮をしながら行なう」「政府はNGOおよび民間部門と協力し、(中略)高齢女性のニーズに特別な配慮をしつつ、すべての高齢者に対するあらゆる形態の差別と暴力を排除すること…。」

このように国連は「高齢者」というとき、単に年齢別の存在としてだけでなく、男性、女性という性別を意識している。その理由は、『カイロ行動計画』が言うように、高齢者の人口のうち、平均寿命の長い女性が人口の多数派を占め、とくに後期高齢者になるほど女性の性比が高まるという、人口論的な事実である。世界の中には、女性の方が平均寿命の短い地域や男女

差の小さい国々もあるが、生活水準が一定レベルに達すると長寿化と共に女性と男性との平均寿命の差が広がる傾向がある。この傾向は、男女とも世界一の平均寿命となった日本にも顕著にあらわれ、若年期中年期まではほぼ1:1を保って来た男女の性比は、65歳以上総人口ではほぼ女6:男4となり、現在のところちょうど80歳以上で女2:男1となる。2000年4月にスタートした介護保険制度の実績でも、要介護度Vには80代以上が大半を占めている。最近では、加齢が与える心身の能力について、高齢者の定義を70歳以上にするべきか、後期高齢者を75歳にすべきか80歳にすべきか、などの論議が専門家の間にも交わされている。老化の速度と状態について個人差が幼少期の成長に比べても大きいことは事実だが、生物として加齢の影響を受け、要介護状況になる比率が高齢になるほど増えるのは避けがたい事実である。その80代以上に女性が男性の2倍である。

高齢者への医療制度改革が動き出し、厚生労働省は「健康ニッポン21」政策を打ち出している。心身の衰退により要介護状態になった高齢者を人間としての尊厳をもって最後まで看取することは、人間社会がなすべき当然の責務である。と同時に、高齢人口が増えつづけるのが21世紀の日本であり世界であり、その多数派が女性であることを思うと、高齢女性の健康は、まさに社会の財産であり、社会的資源である。

『カイロ行動計画』は、高齢女性について単に人口論的側面にとどまらず、社会的経済的にみて、高齢で貧困な女性は「弱い状態」であること、虐待や暴力から守るためにとくに配慮が必要なこと、社会保障やヘルスケアについても女性に特に配慮すべき事を記している。いわば、女性という性を持つ長い一生を通しての社会的文化的男女差すなわちジェンダーに着目するものである。

日本に限らず女性は男性や他の家族をケアする役割が課せられ、独立できる収入の道を閉ざされることが多い。したがって経済的「貧困」は女性の老後には付随する特徴である。女性は高齢になっても、『行動計画』にも指摘されているように家族の「介護者」として働くことがあるが、生涯を通して無償労働であることが多く、有償労働の結実としての年金など社会保障

において不利に扱われやすい。ヘルスケアの分野でも、妊娠・出産期をのぞいては中年以上の女性特有の健康問題はあまり重要視されてこなかった。人生一世紀時代とも言われる時代にあつて、折り返し地点ともいふべき更年期の重要性について、当研究班はさかのぼれば5年前から当事者の実態調査等に取り組み、世論喚起・啓発の役割を果たすと共に、行政機関・専門機関に資料提供の役割を果たしてきた。その延長線上に昨年来2年にわたる「80代以上健康女性の聞き取り調査」がある。すなわち「高齢女性の健康」という国際的な課題の上に、当研究班が実施した「更年期」の調査を重ね合わせて、更年期調査で明らかになった問題—すなわち更年期の過ごし方、支援する環境、家族的問題として介護・子どもの受験などが、現在80代以上健康女性の健康歴と現状にどんな影響を与えているか、80代という高齢期から更年期の過ごし方を照射しようというのが、本聞き取り調査の目的の1つである。

第1年目の試験調査は、研究者が所属する「高齢社会をよくする女性の会」会員に会報を通して呼びかけ、65歳以上85例（80歳～は41例）の票を集めた。

聞き取り調査の目的は、あくまでもその人個人の人生と健康の関係を本人のことばで語ってもらう、健康という切り口での個人史である。幼少期から食糧難の戦時下、戦後の中年期更年期にどんな食生活を送り、どのような家族的・社会的責任を果たしてきたか。そして現在の健康な生活の原因を本人がどう自覚しているか。歴史を英語で history というが、これまで歴史の多くは男性の目によって記録されている。今回、私たち研究班は、女性自身のことばによって自分の健康

の歴史を聞き取ることにした。Her Story of Her Health & Life である。

前回の試験調査の結果は質問が欲張りすぎて散漫になり、焦点が絞り切れなかった反省に立って、調査項目のかなりの部分を削除し、簡潔な質問票に作成し直した。また、昨年は調査対象を「65歳以上」とし、70歳前後の回答もかなり集まったが、やはり80代の元気女性と比べ、説明は詳細で正確であっても、過去を振り返ったときのいわば迫力が大きく違う。女性人口が男性の2倍となる80歳以上を対象として絞り込んだ。

調査方法は試験調査と同じく、全国の会員有志に呼びかけて、これまで多くの当会の調査にたずさわった経験者、研究グループ、行政経験者など調査に一定の経験と知識のある人を中心に、さらに知己をたどって対象者をひろげる、という機縁法 (snow ball method) によっている。したがって、一定地域のサンプリング調査によるものではないから、全体の傾向を数値であらわすことではない。あくまでも「80代で元気女性」という一定の条件のもとの個人の健康の story であり自分史である。しかし、80代以上の「健康」が社会的にこれほど求められる現在、こうした個々の story を丁寧に聞き取ることから、そこに普遍性を探り、今後の行政はじめ各専門機関、さらには個人に対しても参考に供することができる。

今回の調査対象は「高齢社会をよくする女性の会」全国的ネットワークを反映して以下のような分布となり27都道府県、北海道から沖縄までほぼ全国を網羅している。

### 県別80代以上健康女性聞き取り調査

サンプル数 179

県名	人数	県名	人数	県名	人数	
北海道	10	長野	2	岡山	6	
秋田	1	新潟	3	広島	2	
山形	13	石川	7	鳥取	2	
宮城	9	(小計) 信越・北陸	(12)	(小計) 中国・山陰	(10)	
福島	5			高知	2	
(小計) 北海道・東北	(38)	愛知	1	福岡	31	
栃木	1	滋賀	1	佐賀	1	
埼玉	12	京都	9	鹿児島	1	
千葉	13	大阪	2	沖縄	9	
東京	16	奈良	9	(小計) 四国・九州	(44)	
神奈川	5	兵庫	1			
(小計) 関東	(47)	(小計) 中部・近畿	(23)	無記入	5	合計 179

今回の「聞き取り調査」のまとめは、以下の内容から成っている。

## 1. 序論—高齢女性の健康は社会の財産—

ここでは調査の意義と本調査に至る経緯、高齢女性の健康が持つ国内的国際的意義について述べている。さらに「80代以上元気女性」が生きた時代背景について、年表をつくり考察の助けとした。

調査対象の年齢（調査は平成12年9月～12月）は80歳から99歳（11月生まれなので現時点では100歳）に及んでいるが、調査対象を80歳以上に絞り込んだため個人が生きた時代背景、それぞれの年代の生活環境の共通点をとらえることができた。

今後、10年程度のスパンで、「80代以上元気女性」のコーホート分析を行なう手がかりとなると思われる。

## 2. 彼女たちの一生・物語10

今回の調査は聞き取りによる「80代以上元気女性」の典型例を集め、その共通性普遍性をその有無を含めて考察するものである。

したがって、まず研究者4名（沖藤典子、袖井孝子、富安兆子、村岡洋子）が協議の上、典型的な好事例を10例選び出した。

## 3. 80代以上元気女性の健康への影響分析

ここでは、沖藤、富安、村岡の3人の研究者が、介護、更年期、生きがいなど生活信条、食生活をキーワードに全員について一覧転記を作成し分析を加えている。

地域の中に自立してひとり暮らしをする80代女性の気力には圧倒されるものがあった。高齢期を迎える多くの女性に勇気と示唆を与える内容である。医学的見地から、産婦人科医でリプロダクティブ・ヘルスに造詣の深い堀口雅子氏からコメントを得ることができた。

今後とも80代以上の女性の健康と自立は、くり返し述べるように社会の豊かさを決定する要因である。今回の聞き取り調査が、当事者、家族、国・地方の政府機関、NGOなどによって利用され、元気づけられるように願っている。

## 4. 「すこやか八十子さん」の年表作成に関して

「すこやか八十子さん」を、当時の日本の質素な中流家庭の娘と想定して、80代女性が生きた時代の年表を作成してみた。

現在の年齢を80代半ばとすると、八十子さんは出生からしばらくは大正デモクラシーとその余韻の中を生きる。軍国主義の足音が強く響きはじめやがて基調底音を成していくのと交錯しながら、高等女学校（当時中流家庭の子女が進学する中等教育）卒業までは、吉屋信子の小説に出てくるような、純粋な理想と乙女の夢を保つことが可能だったろう。しかしこの世代の女性は、法制度的に男女差別され、男女同等の教育は受けられなかった世代である。

戦争の気配が強まる中で、娘の親たちは結婚をあせった。平均初婚年齢が僅かながらそれ以前より下がった時期である。見合い結婚が大多数であった。結婚したとたん戦争が激しくなり、生めよ殖やせよ。夫は戦場に妻は銃後を守った世代である。夫が無事だった幸いな家庭でも、八十子さん世代は大勢の子どもの世話と、水汲み・火起こしから始まる家事労働に疲れ果てながら30代から40代前半を過ごすことになる。家庭電化・消費革命が高度成長と共に行きわたり、洗濯などの苦勞から解放されるころ、八十子さんは40代半ばに達していた。いわゆる三種の神器の電化製品普及率は、八十子さん47歳の1963年には、白黒テレビ88.7%、洗濯機66.4%、冷蔵庫39.1%であり、20年後にはほぼ100%の普及率となった。

八十子さんの世代は、きょうだいの数が多く、かつ平均寿命が短かったため、長男の妻でない限り舅姑との同居の必要は少なかったし、現在のような長期間にわたる上の世代への介護は、はるかに少なかった。しかし戦時下の物資不足・食糧不足・子だくさんの中での家事労働は、電化製品があらわれるまでは、まことに長時間の重労働だったというべきである。戦後初期の家政学（住居学）の課題が台所の主婦の「動線」に一時期集中したのも、主婦過勞説の前提にたったものである。

この世代は幼少期には貧富の格差が大きかったが、妊娠・出産期1930～1950年代、とくに1940年代いっぱい10年間は、国を挙げて階層差を押しつぶすほどの食糧難・物資不足にあえいだ時代であった。この時代に家事に加えて出産育児はたいへんな負担と思われる